

バングラデッシュにおける船舶解体

二〇年以上、商業的な船舶解体がバングラデッシュで行われてきた。年間平均一八〇～二五〇隻の船が三五か所の解体場で、五〇、〇〇〇人の直接雇用、八〇、〇〇〇人の間接雇用をもたらしながら解体されている。これらの解体場における作業は労働集約的であり、雇用保障も社会保障もなく、労働力の九八%を占める組織化されていない無学の地方からの出稼ぎ者は、アスベストの危険性についての知識もない。職場での無数の有毒物質への曝露や、事故、怪我、及び死亡は日常的に起きている。

バングラデッシュにおける船舶解体産業の成長には多くの自然的及び政治的な理由がある。海岸線は大型船の浜への乗り上げに適しており、解体場が地理的に隔離されているので、労働状態の社会的な監視を免れることができる。安い労働力、安価な機材、そして安全衛生に関する法規制の欠如が解体業のコストを下げている。廃船から回収した材料の販売価格が高い。

- ・ 圧延工場がくず鉄を再生する。
 - ・ 店が船の古い家具類を売る。
 - ・ 再生されたアスベスト・シートが再利用される。
 - ・ 中古の電機機器及び材料は、衛生設備、厨房機器、及び調理用器具として販売される。
- バングラデッシュではアスベスト廃棄物の撤去と処分は規制されておらず、船からのアスベストは手動で粉砕されて再利用されるのが一般的である。アスベストの脅威に対する全国的な取り組みは「バングラデッシュ労働安全衛生環境基金(OSHE)」によって推進されており、*世界及び同

* [原注67] Founded in 2003, the OSHE is a specialized labor foundation for collaborative work on development issues relating to the human rights of workers, decent work and sustainable development.

国のアスベスト及びアスベストを含む船の輸入の禁止、アスベスト含有製品の再使用の禁止、政府の規制、定期的な職場の検査、アスベスト被害者の支援と補償を求めるキャンペーンを展開している。OSHEと「アジア・モニター・リソースセンター（AMRC）」は、二〇〇六年二月二五・二六日にチャゴンのアルゴバッドで「南アジアにおけるアスベスト禁止」会議を開催した。この小さな非公式な会議に、労働衛生専門家、地域活動家、労働組合、及び科学者らがバン格拉デイシユ、インド、パキスタン、日本から参集し、インドにおける発電所でのアスベスト曝露、船舶解体産業におけるアスベストの危険性、アジアのアスベスト政策、そして南アジアにおけるアスベスト被害者団体とNGOの展開などについて、他の議題と共に検討した。インド代表団のゴパール・クリシュナは、バン格拉デイシユでの会議は有益で生産的であり、また船舶解体場も訪問し、人々が健康と安全の防護措置なしにアスベストがいっぱいの大気の中で働いている姿を観察したと報告した。

オランダ労働組合連合と連携して、OSHEは、船舶解体労働者にアスベストの危険性を知らせる、地域の労働組合が政府及び会社側とアスベストについての社会的な討議に積極的に参加できるように支援し、労働安全衛生を守るための手順や規制を策定するためのプロジェクトを立ち上げた。公衆の認知を高めるために、二〇〇七年四月、OSHEは国際労働者記念日（IWM）を祝して次のようなイベントを首都で開催した。

「アランの労働者は、政府には基準を確立し施行する能力がないので、日々、搾取と生命を脅かす危険にさらされている。」

インド労働組合センター（CIITU）PKキャングリー

・四月二十七日…ワークショップ「デイーセントな（人間らしい）仕事を現実のものとする」を開催。
その後、アスベスト禁止全国アピールを記者会見で発表。
・四月二十八日…チッタゴンのシタクンダにあるOSHSEセンターで「アスベスト禁止」に関する大衆
討論*



* [原注68] (2007年) 4月28日に計画されていたバングラディシュ最高裁判所前でのアスベスト禁止デモは、当局の認可が得られず中止となった。

写真：2006年12月15-16日、バングラディシュ・チッタゴンで開催された「アスベスト禁止と今後の戦略のための南アジア会議」

<http://www.ne.jp/asahi/kagaku/pico/basel/shiryuu/bangladesh.pdf>